

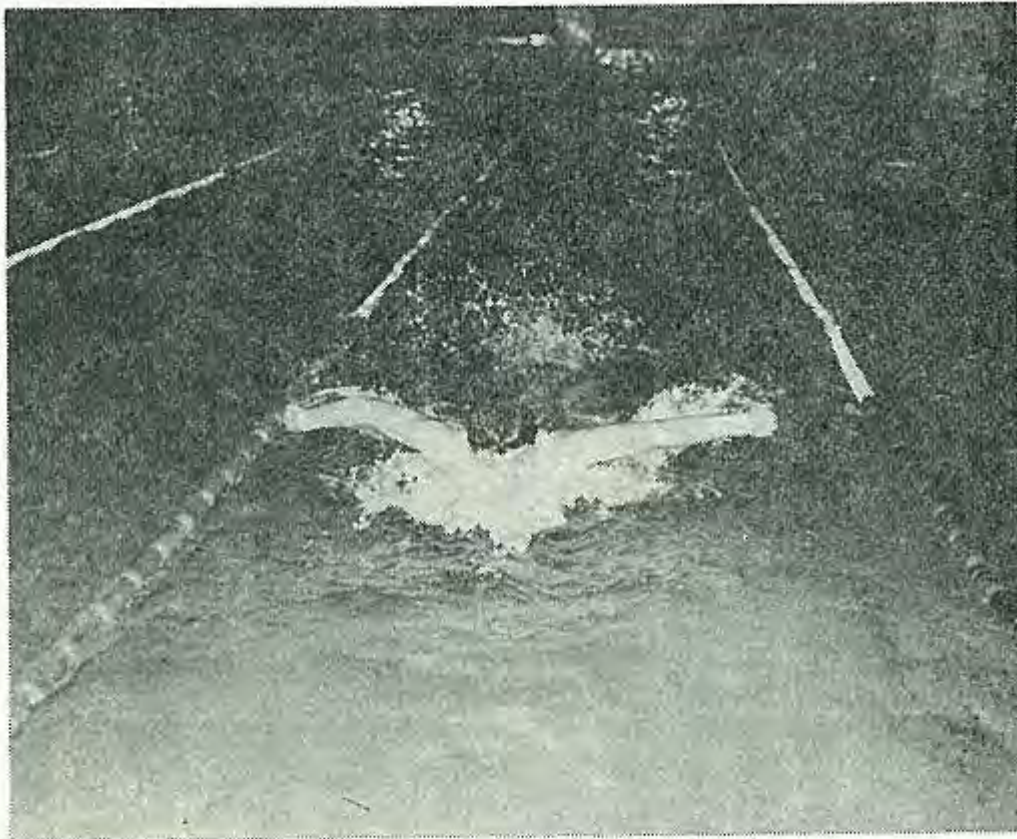
日大豊山水泳部の軌跡 5

井上先生の就任後、チームの主力となった選手は駒崎康弘氏である。

駒崎氏は日大豊山中学時代から活躍し、第8回全国中学校大会 200m バタフライで優勝した。

高校2年生の時には日本選手権 200m バタフライで優勝(その後5連覇)、同年のバンコクで開かれた第6回アジア大会では 100m・200m バタフライで優勝した。

大学1年生の昭和47(1972)年、ミュンヘンオリンピック代表選手に選ばれ、400m メドレーリレーで第6位に入賞した。



駒崎選手のカ泳
(本校プールにて)

下の記事は昭和 46(1971)年の育友会新聞『ぶざん』第 3 号である。

アジア大会に参加して
 水泳部 高二ー
駒崎 康弘

四年十回大会の成功と、生涯にわたっての思い出を残すため、今年も各大会に力を入れて参加してまいりました。その中でも、先般の全日本学生選手権大会で、男子水泳部として、初の優勝を挙げ、これは、実に三十二年ぶりのことです。この優勝は、選手たちの努力と、指導者の苦心のたまひです。

日本選手権大会に出場できたのは、誠に光栄です。大会では、男子水泳部の選手たちが、それぞれに活躍をみせました。男子水泳部の選手たちは、それぞれに活躍をみせました。男子水泳部の選手たちは、それぞれに活躍をみせました。

駒崎選手は、男子水泳部の選手たちの一人です。彼は、男子水泳部の選手たちの一人です。彼は、男子水泳部の選手たちの一人です。彼は、男子水泳部の選手たちの一人です。

駒崎選手は、男子水泳部の選手たちの一人です。彼は、男子水泳部の選手たちの一人です。彼は、男子水泳部の選手たちの一人です。彼は、男子水泳部の選手たちの一人です。

×	×	×
×	×	×
×	×	×

駒崎氏は在学中、インターハイで3年間優勝しており、3年生の時には100m・200m バタフライで優勝している。

当時、優勝争いをしていたのは広島尾道高校である。

日大豊山は藤木正隆氏の100m背泳ぎでの優勝などもあったが、最終日、最後のレースである800mリレーで逆転され、総合得点は尾道50点、日大豊山49点で1点差の第2位であった。

その時の育友会新聞の記事はそのときの悔しさが伝わってくる内容である。

惜しくも準優勝

主事 高橋 札次

昭和四十六年度全国高校総体体育大会が八月一日から八日まで、徳島県を中心とした四国四県で開催されました。

水泳競技大会は、深い緑の山々

役員紹介

会長 勝田 正彦(高二)
副会長 宮崎 介向(OB)
牛山 宗美子(高二)
伊達美代子(高二)
立沢 博(中)
矢島 広司(高二)
野上登志子(中三)
五田 野男(高三)
高瀬 豊治(高二)
高瀬 礼次(高二)
堀口 岩雄(高二)
堀口 三郎(中二)
堀口 房次郎(高三)
木島 あい(高三)
黒沢 文弥(校役)
柴崎 文二(高三)
中井英一郎(高三)
加藤 利明(高二)
田部井一雄(高二)
菊田 清(高二)
岩田 典夫(高二)
長谷川風機(高二)
坂井スミ子(中三)
田中 康之(中二)
藤田 輝一(中一)
羽根田正武(教務)
青川 雄作(教務)
佐藤 高司(教務)

と右に山内家、千四万石の高知城のある賑やかな商店街から少し離れた、静かな一帯にある高知市営プールで競泳と飛び込みが五日から八日まで開催されました。

本校からは先般日本水泳連盟の招待で、米国のサンタクララにおいて開催された第五回全美水泳大会に参加した個人メドレーの閉路選手を初め、十四名の選手が出席し、昭和二十八年に優勝以来主座を奪われて八年、今年こそはそれを奪回する絶好の機会と胸を躍らせて大会に参加しました。私達も応援のため通目利された校豊クラブ後援会からお忙しななか代表として、副会長の木島さん、育友会編集部の鈴木さん、生徒会会長の小森君ほか三名、学校から生徒会主任羽根田先生、体育部主任蒔賀先生、育友会書記佐藤先生以上九名、八月五日の夜行で、現地に駆けつけました。

現地はあいにく台風十九号の影響で、天候も定まらず曇りのぶり返しと、とてまぬぬの雨に見まわられて競技には必ずしも絶好の条件とは云えませんでしたが、白米バタフライで本校の駒崎選手が五八秒八の大会新記録、百メートルで藤木選手が一位、二百メートルメドレーで藤木選手が二位等の上位入賞者を出して好記録、好成绩をおさめ、優勝の行方は、日大豊山から尾道高校から二点差を叩いて大会最終日の最終戦である八百

桜豊クラブ後援会 援助の利用について

数年前から懸案になっておりましたクラブ後援会も昨年度より育友会会長をはじめ、役員の方々のご努力によって生徒会に「協力をいたたくことになりました。そこで先日育友会の編集部より体育部の現状について報告をするよう依頼をいたしましたので簡単に記したいと思います。

先ず、年度当初に体育部が要求した金額に対して生徒会から分配された金額が六十万の不足でした。その分をゆりかぜクラブ後援会より援助を受けることになったわけですが、二学期からスタートの運びになっていたので、後

(写真八回リレー決勝)

米リレーに持込まれましたが、各選手の力も空しくいまいま一歩というところまで追いつめながら、惜しくも優勝を逃してしまつたことは、選手諸君の気持ちを察するにあまりありませんが、優勝戦を最後まで苦しめ、ここまで頑張つた選手諸君の備前に情けない拍手と称賛を送るとともに、来年はより一層頑張って貰いたいと願うものです。

最後に、水泳部のコーチである井一八。

駒崎氏のお兄様は仕出し料理『茨城屋』を高田馬場で経営され、長年にわたり合宿所生徒のお弁当や校内合宿の食事を提供していただいたことを記しておきたい。

日大豊山水泳部は、昭和49(1974)年から53(1978)年までインターハイで総合第2位・第3位を続けた。

昭和49(1974)年には大石則夫氏が100m バタフライで優勝、200m バタフライ第3位、岡誠氏が200m バタフライで優勝した。

同種目で日大豊山の選手が1位と3位に入る活躍をした。



昭和 50(1975)年、51(1976)年には三科典由氏が 100m 背泳ぎで 2 年連続で優勝した。

三科氏は日本が不出場であったが、モスクワオリンピックの代表選手に選考された。

また、昭和 51(1976)年には高橋光一氏が 100m 自由形で優勝、昭和 52(1977)年には 100m・200m 自由形で 2 冠を達成した。

そして昭和 54(1979)年、ついに滋賀県で井上先生の悲願であったインターハイ男子総合優勝を果たした。

学校としては実に 16 年ぶりとなる優勝であった。

尾道高校に 1 点差で敗れた悔しさが忘れられないものとして残っているという井上先生と当時コーチとして指導していた駒崎氏の熱い思いが選手の頑張りにつながった総合優勝であった。